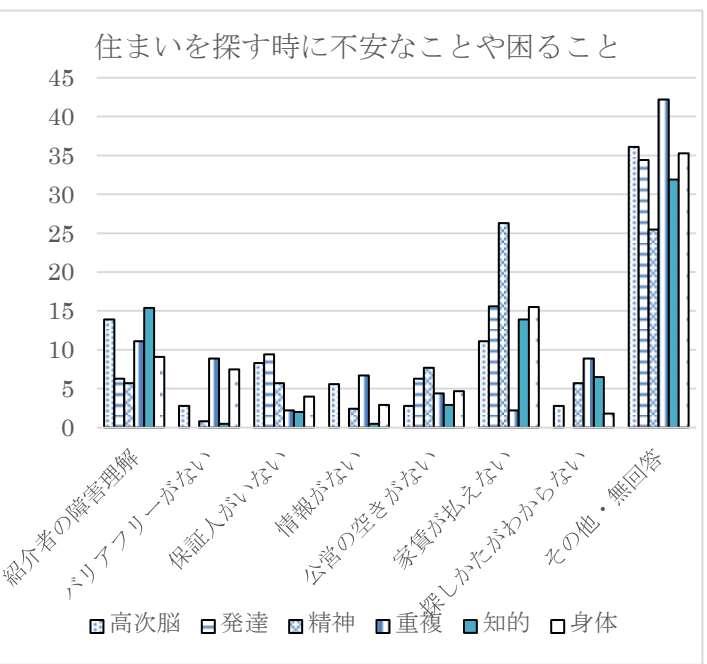
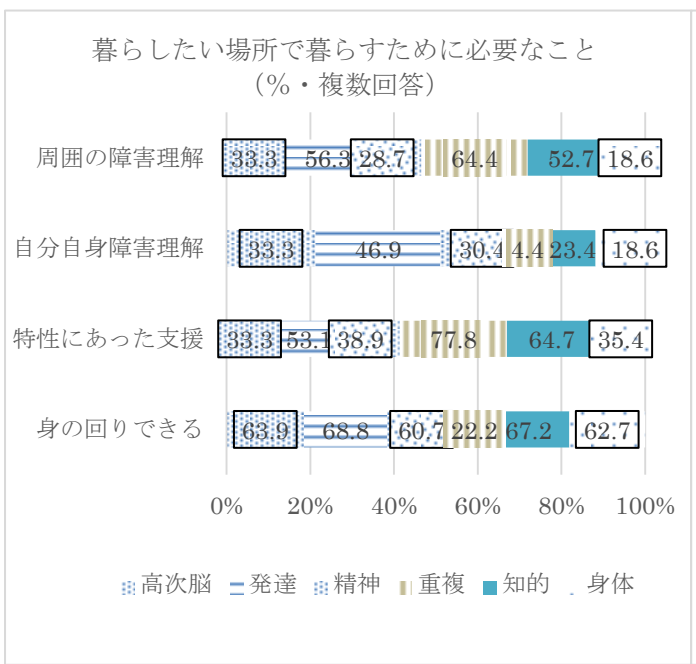
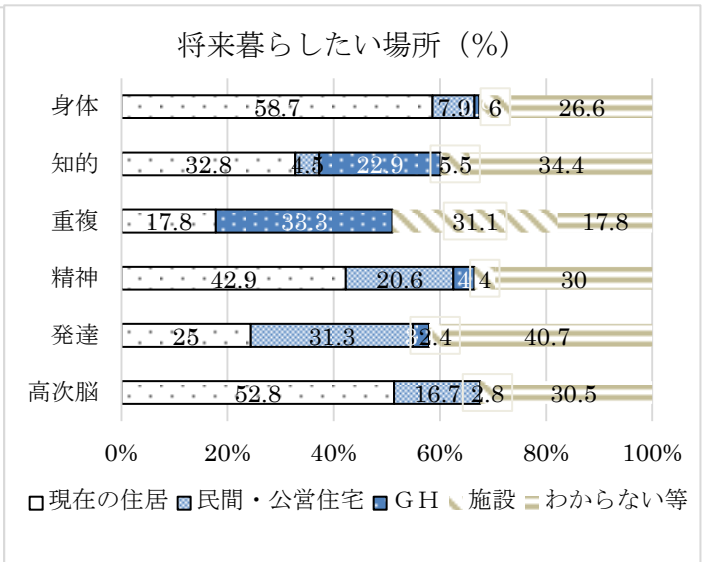
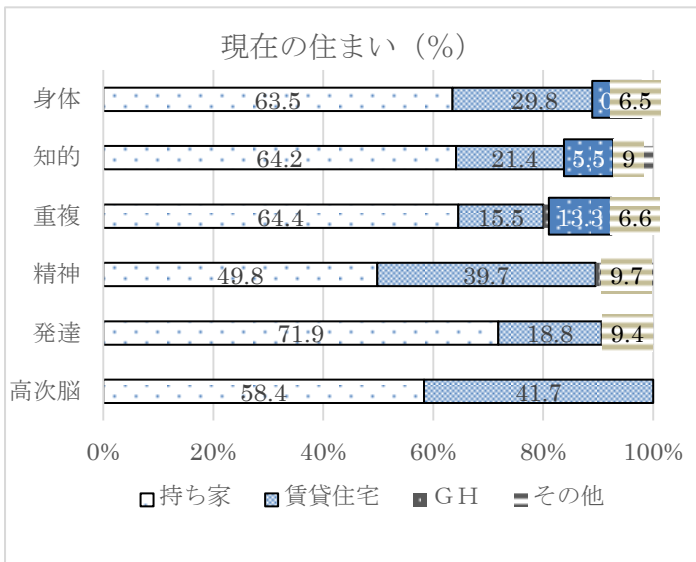


ちいきせいかつ かん ちょう さほうこく  
 地域生活に関する 調査報告から

ひょうきちょうさから、とくにすぎなみく、そうごうけいかく、じっこうけいかく、きさいのあるこうもくとう、す、さいがいじたいさく、しゅうろう、けんりようご、いりよう、ばつすい、かくにん  
 標記調査から、特に杉並区の総合計画・実行計画に記載のある項目等（住まい、災害時対策、就労、権利擁護、医療）を抜粋し確認した。

(1) すまいとう  
 住まい等について

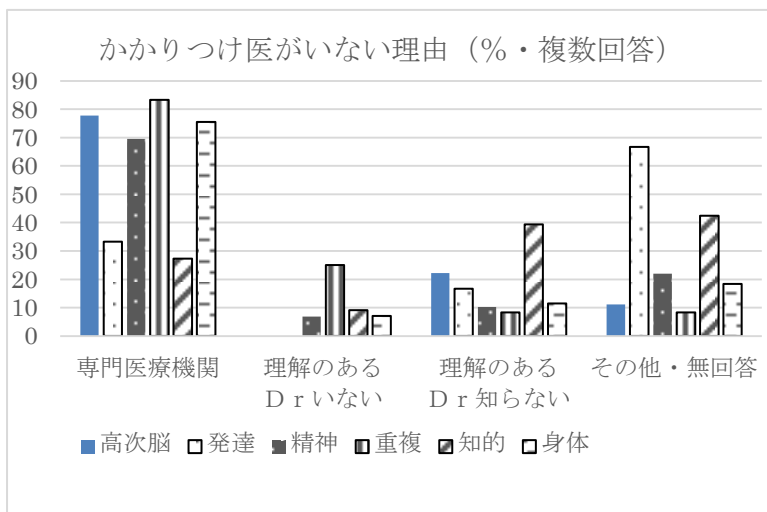
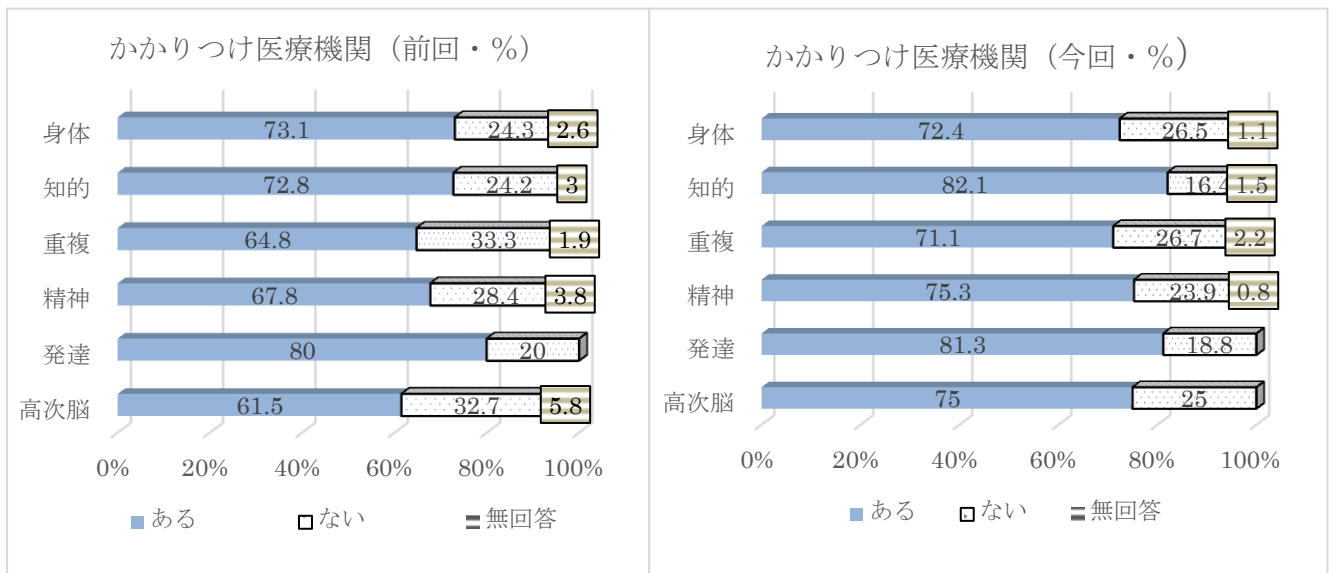
- ① どの障害においても、前回調査同様に持ち家の割合が50%以上と高い。
- ② 将来暮らしたい場所については、身体障害・高次脳機能障害の方は現在のままと回答する割合が50%以上と他の障害の方より高くなっている。
- ③ 知的・重複障害の方はグループホーム（G H）を希望する割合が高く、重複障害の方については G H と同じくらいの割合で施設を希望する割合が高くなっている。
- ④ 発達障害の方は親元を離れた生活を希望する割合が高いが、わからないと回答する割合も他の障害に比べ高くなっている。



- ⑤ 暮らしたい場所で暮らすために必要なこととして、どの障害の方も「支援者や地域住民の障害理解」・「自分で身の回りのことができること」・「特性にあった支援」と回答する割合が高くなっている。
- ⑥ 発達障害・精神障害の方では、「自分自身の障害理解を深めること」と回答する割合が高い。
- ⑦ 住まいを探すときに不安なことや困ることについては、どの障害の方も「わからない」・「無回答」の割合が高い。その中でも「住居紹介者の障害理解」と「家賃が払えない」と回答する方の割合が高くなっている。
- ⑧ 精神障害の方は「家賃が払えない」「公共住宅の空きがない」と回答する割合が他の障害に比べ高い。
- ⑨ 身体障害、重複障害の方では「バリアフリー住宅がないこと」と回答する割合が他の障害に比べ高くなっている。

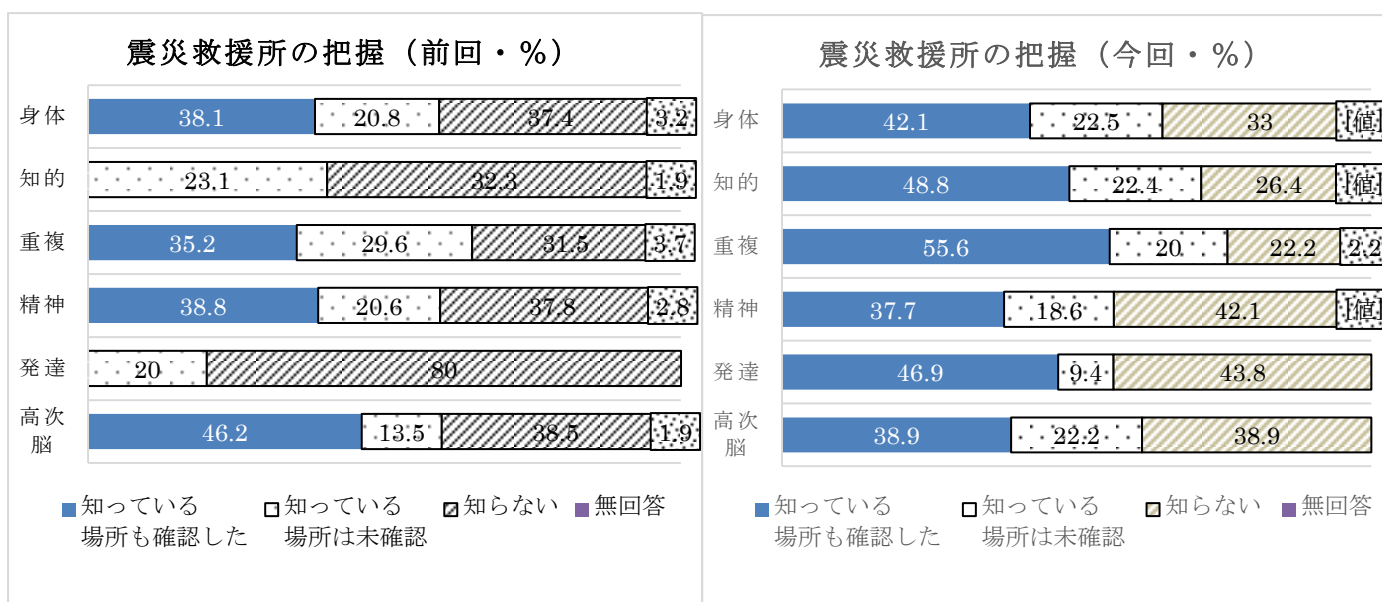
(2) 医療について

- ① かかりつけ医を持っている方の割合は、どの障害でも前回の調査に比べ若干ではあるが増えている。
- ② かかりつけ医がいない理由については、どの障害でも「障害メインの主治医がいるから」と回答する割合が高い。また、「障害理解のある医療機関を知らない」と回答する割合も高くなっている。



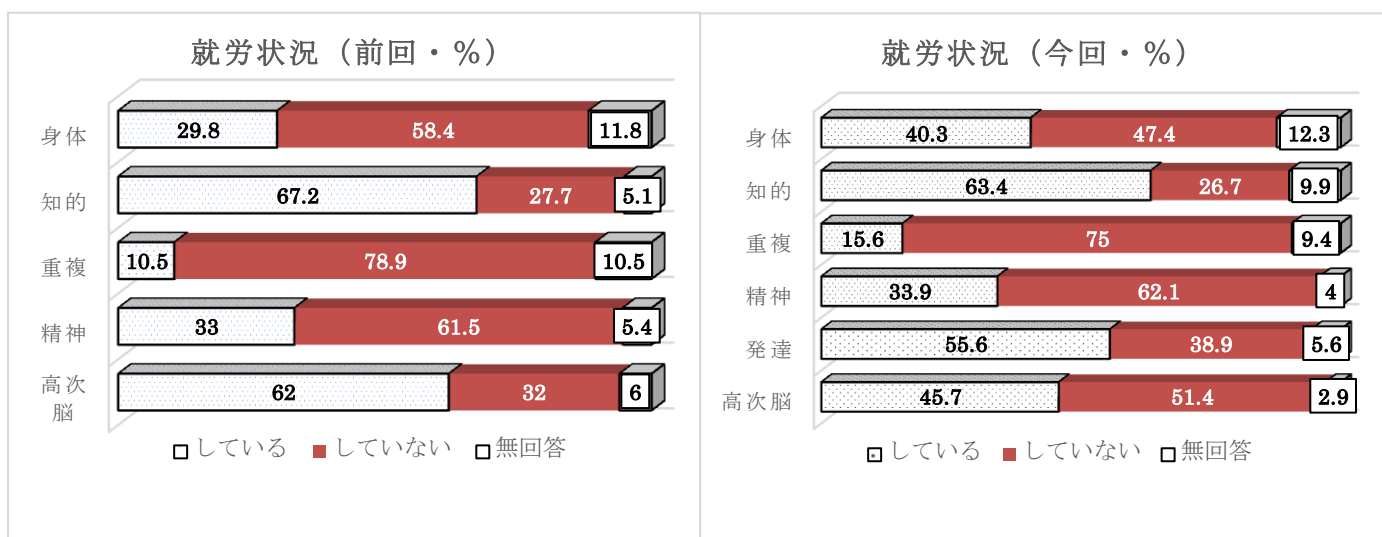
### (3) 災害時の備え等について

① 震災救援所を把握している人の割合はどの障害でも前回調査時より増えている。



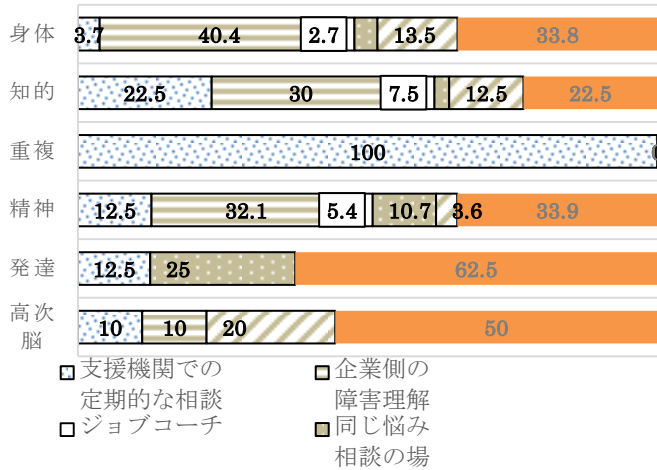
### (4) 就労について

① 就労している方の割合は、身体障害・精神障害の方は前回調査より増えている。

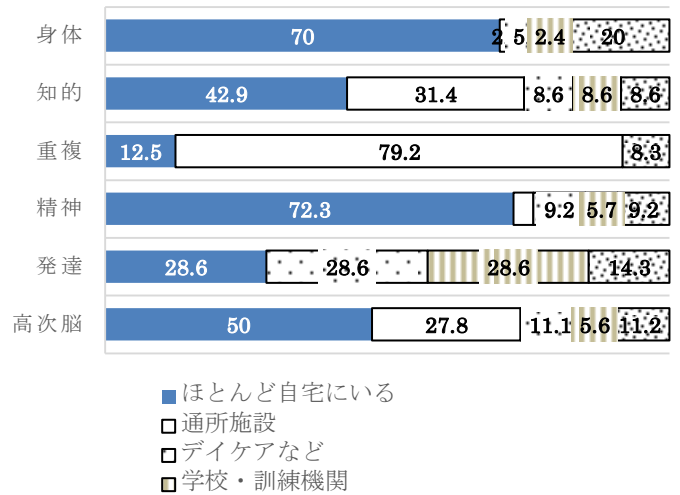


- 就労を継続するうえで必要なものとして、身体・知的・精神障害の方では企業側の障害理解と回答する割合が高い。
- 発達障害の方では同じ悩みを相談できる場と回答する割合が他の障害に比べ高い。
- 未就労者については、身体・精神・高次脳機能障害の方は家で過ごす割合が高く、知的・重複障害の方は通所施設で過ごす割合が高くなっている。
- 就労意欲については、発達障害の方は一般就労したいという割合が高いが、他の障害の方は今のままでよいと回答する割合が高い。

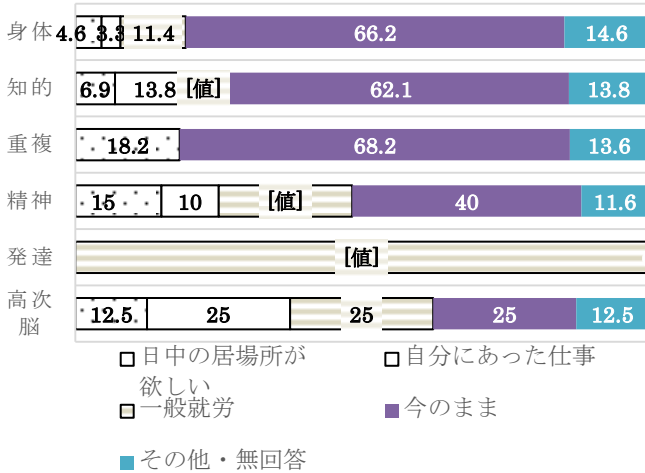
就労の継続に必要と思うもの (%)



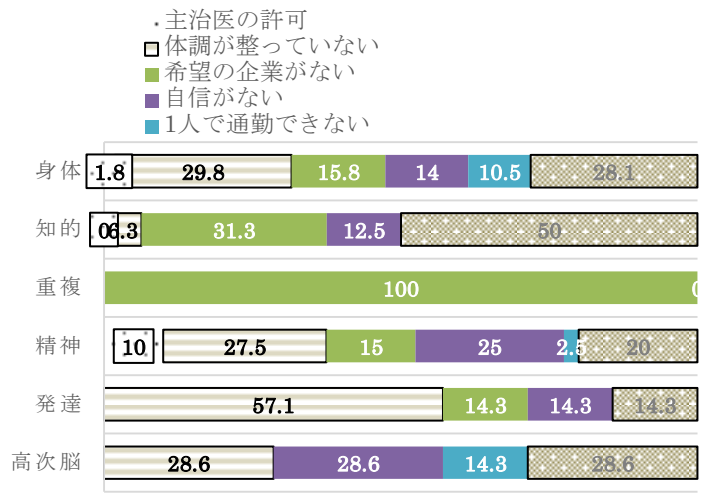
未就労者の日中過ごす場所 (%)



未就労者の就労意向 (%)



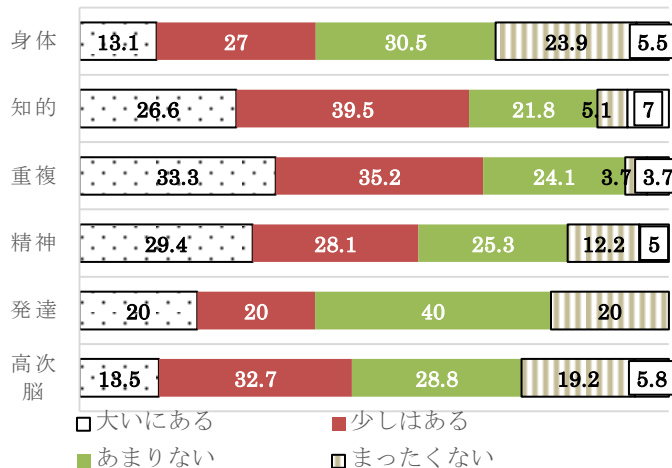
就労できない理由 (%)



(5) 権利擁護について

- ① 嫌な思いや偏見をもたれたことについては、前回の調査とあまり変化のない結果となっており、依然偏見を少なからず感じる状況がある。

嫌な思い・偏見をもたれたこと (前回・%)



嫌な思い・偏見をもたれたこと (今回・%)

